

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢区あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 16日	評価結果市町村受理日	平成27年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0391500063-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成27年 2 月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を介護理念に掲げ、利用者様の間でも自然な助け合いが成される雰囲気大切に、そのなかで生まれる自尊心、周囲に必要とされる嬉しさや誇りを重要視しています。同時に個性の尊重を重んじており、画一的な生活ではなく、個々の好みや気分に合わせて生活を送っていただけることを意識し日々の支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前沢駅からほど近い、新興住宅地として開発された地域の一角に位置している。ご近所となる新築の一般住宅も少しずつ増えており、保育園や養護学校・障がい児施設、コンビニや大型ショッピングセンターにも隣接している。とりわけ、保育園やコンビニでは園児や買い物をするご近所の皆さんと交流したり、地域住民との夏祭りの開催、清掃や集落活動への参加等で地域交流を図っている。ホーム開設後、6年を経過する中で地域との絆も太くなり、地域の灯台的役割としての存在感と信頼感が増してきていることが実感される。職員は、地域との一体的な防災訓練などを毎年重ねる中で地域に溶け込み、地域の秋祭りの共同開催案も浮上するなど、コミュニティのなかで存在感のある事業所として期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前に当時入所していた利用者様の言葉をヒントに「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」という理念を掲げた。日々それが実践できるよう努めている。	毎日、朝礼で全職員で唱和して、思いを寄せた理念について、それぞれ意識を高めあっている。短くて分かりやすい理念であり、しっかりと共有し目線と方向性を合わせ、ケアに当たっている。今後は、理念・実践を振り返る機会を持ちたいとしている。	職員の異動や業務多忙などの関係から、理念に対する職員の思いや考え方が、異なってくることも考えられるので、随時、皆で、理念について確認しあう機会を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会員として活動協力をしている。事業所行事に地域の方々にもご参加いただいている。近隣の保育所とも交流がある。	多くの交流資源(保育園・養護学校・ショッピングセンター等)に恵まれており、普段の散歩や買い物、そして七夕祭りなどを通じた交流が、頻繁に行われている。お付き合いを通じて、年々信頼感と存在感が増し、地域の「灯台」として認識されている。	新興住宅地の中にあつて既存住民から地域活動の核として期待されている。保育園・小中学校・障害児施設等との交流やホームから情報発信を続けながら、より近隣住民と楽しみ協働していく活動が進むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて消火器使用訓練を開催。ホームの避難訓練には地域住民様に利用者様と接していただき認知症の人の理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組み状況の報告から様々に話題が拡がる中で、今後のホームの取り組みにフィードバックできる案もでてくる。	ホームからの状況報告(生活と健康の状態)と委員からの話題・協議が主な内容となっている。「グループホームとはどんなところ?」についてしっかりと知りたいという意見も出され、地域への正しい情報提供のため、皆さんで確認しあう場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当課長様にも参加いただいている。他、近隣グループホームと合同にて様々な情報をいただけるような機会を得るよう心がけている。	運営推進会議を通じたり、グループホームの会合等の際にも指導を得たり、情報交換も行っている。普段には、生保担当者や介護相談員の訪問もあり、顔なじみにもなっており、電話やメール等でも連絡や相談ができる円満な関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、それ以外の身体拘束は基本的にありえないとし、職員が共通認識を持っている。	言葉づかいを含めた身体拘束とはについて研修を重ねるとともに申し送りや会議で再確認し「身体拘束はありえない」との認識のもとに支援している。夕方の帰宅願望利用者には安心感を抱けるように職員が寄り添い声がけしている。玄関を含めた施錠は夜間以外なしとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に、ありえない事柄であるとし職員は勉強会を通じて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる可能性がある利用者様は現時点ではいらつしやらない。制度の理解を得よう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの間、不安や疑問点に対しての連絡を取っている。契約時には解約となる場合の条件についても説明し、またその可能性が出てきた際もあらためて説明し、相談をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。家族や面会者にも意見が表出しやすいよう、質問箱の設置やケアプラン更新時に意見、質問の記入をお願いしている。	家族からは面会時やケアプラン更新時に意見要望を聴いており健康管理面の要望が多く職員は話し合いながら支援に活かしている。利用者からは、支援時の話題や気づきを大切に、ハード面ではトイレの手すりの設置の場所を多くとの希望が実現化されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共に介護業務に入り、介護現場の把握に努めている。また職員間での報告、連絡、相談のための申し送りノートを常時活用しており、反映させている。	全職員で業務に当たっていることから、会議の場のみではなく、普段業務中にも様々な意見を交わしながら、その実現に努めている。運営面については、介護従業者の充足や勤務シフトについて率直に話し合い、問題の共有・解決に当たっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成時に休日希望を全職員に尋ね、可能な限り休日としている。事業所行事などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な意識やコミュニケーション技術などは働きながらトレーニングしていくこととし、自己トレーニングを促すため段階的に仕事量を増やすなど工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、管理者は交流等おこなっている。また同系列のグループホームが市内と隣接町内にあり情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネージャーを介しての入居申請が多く、各々の御事情から他サービスよりグループホーム入居が適している状態と判断され、申請時にお話いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と共に摂る。日々の業務の中で常に談話する機会がある。茶碗拭き、洗濯干し・たたみなど利用者様が主体の家事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診援助を御家族様にさせていただき利用者様が居り、通院後に共に外食をされたりすることが生活の楽しみとなっている。また定期的に兄弟宅に外出する利用者様も居り状況報告を先方からもいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望がある場合は地域の敬老会に利用者様の出席を支援している。昔からの馴染みの美容院に出かける利用者様も居る。利用者様の親戚や友人等の面会や外出も自由に受け入れている。	家族をはじめ友人知人の来訪が主であり、それぞれの部屋でしばし、楽しく過ごしている。馴染みの床屋さんに行く方、新たな訪問床屋さんや馴染みとなる方もいる。家族と一緒に馴染みの継続と新たな馴染みの発見・継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話をしやすい環境づくりを進めていく中で利用者様間の自発的な関わり合いや支え合いが職員も交えて日常になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の構築の中で希望、意向の把握は常時行ない事業所の日々のレクリエーションや行事に生かされている。	菜園での作業や入浴・夜間など日々の関わりの会話や表情から意向や思いを受け止め、職員で話し合いながら一人ひとりの支援に活かしている。つづきや思いは、居室での朝食希望、産直見学、レクリエーションの塗り絵や輪投げを行う等で暮らしに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は御家族様や市町村、使用サービス事業所から情報収集をしている。入居後も継続して情報収集し、失礼にならないければ友人等からも日常会話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	信頼関係の構築の中で継続的に把握に努め支援に活かされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様へは郵送で計画内容素案を提示し、意見を記入しやすい体制をつくっている。	職員の気づきや会話・申し送りノートを参考に、モニタリングを行い職員で協議し、計画作成担当者が素案を作成している。素案を家族に郵送し、要望・意見を聞き更に検討しながら一人ひとりの現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員で個別記録を毎日記入する。それと併用し申し送りノートも活用し情報共有と考察に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が遠方に居られる場合や様々な都合に応じて、行政への申請代行や保険証関係書類の送付先変更など対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体として複数の団体から踊りや歌の訪問をいただいております、そこで知人に再会したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医の利用を基本としている。定期受診以外でも各々の医療機関には相談ののっていただいている。	家族等の希望するかかりつけ医となっており、定期受診については、職員の同行を基本にししながら、家族同行も依頼している。かかりつけ医との関係は円満な関係であり、日々の健康管理は、かかりつけ医の指導を得ながら、職員が当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない。かかりつけ医院では、看護師に各々の利用者のケアについて助言をいただくことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻りに医療機関に出向いている。看護師等病院関係者と頻りに情報交換をし、関係づくりに繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に 医療機関において常時、治療を有する必要となった場合は退居の条件となっている。終末期ケアはハード面、マンパワー面から現状不可能であり契約時に説明させていただいている。	契約時に、ホームでの重度化・看取りは現状の体制では困難である旨説明し、医療・他施設への連携を重視することで理解を得ている。ホームでの終末期を迎えたい・迎えさせたい意向も垣間見られ、将来的に看取り体制の構築は必要との認識はもっている。	社会的に介護の在宅指向にあって、住み慣れたホームでの終末期・看取りの希望は多くの利用者・家族の願いでもあることから、医療や関係機関とも話し合いながら利用者本位を考慮し将来に備えて検討課題として頂けることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受講している者が多い。救急車の要請なども実践した職員は流れを把握し次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。訓練時は地域の住民に参加いただく他、地域の自主防災会より災害時の応援承諾を得ている。	地域とともに行う防災訓練を含めて年に2回の総合訓練を行っている。緊急時対応に向けて、AED(コンビニ設置)対応研修も行って、いざという時に備えている。地域の自主防災組織の協力(訓練に積極的参加)の下、しっかりと確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの個性と向き合い、照らし合わせて考えていくことで、利用者様の個性の尊重を根付かせ冷静な対応を目指していく。	利用者は、それぞれに長年培ってきた知識や技(みずき団子飾り等)を、職員は、教わるとともに、その披露の機会を作り、尊厳と役割意識、自分の自信にもつなげている。声掛けも本人の笑顔に繋がるような言葉遣いに配慮しケアに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築、また、その雰囲気づくりを最優先に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ出かけていた利用者様もあり、ご本人の希望に沿って支援している。おしゃれも職員と楽しく話し楽しんでる利用者様がいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の茶碗拭きは利用者様の日課になっている。調理も希望される場合や職員から依頼して一緒に行なうことがある。	利用者からのリクエストを加えて、献立をつくり(栄養士の指導)、食事は、出来る方好きな方には積極的に参加(食器拭きは全員)してもらい自家菜園やお裾分けの食材を上手に使いながら、話題にもして、職員と一緒に談笑しながら食べている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々が水分を充分取れる工夫をおこなっている。栄養バランスは栄養士作成の献立を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに誘導が必要な利用者様への誘導や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表、生活状況の観察からパターンを把握している。	排泄は自立している利用者が多くトイレ利用を基本に支援している。紙パンツを拒否する方もいて排泄パターンを参考に声がけ誘導でトイレでの排泄ができており、ひとりの利用者は安心のため夜間のみポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、水分補給や日々の体操に力を入れている。市販の食物繊維パウダーを料理に加えて工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は暫定の予定者は組むが希望や各自の御予定によって柔軟に変更可能にしており、入浴順番も含め利用者様の希望に添えるよう努めている。	浴槽は個浴で利用者の体調や気分を考慮しながら週2～3回の入浴頻度となっている。拒否する方は時間や日にちを変えて声がけしたり足浴をしている。菖蒲湯や入浴剤で季節感・雰囲気を変え楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室にて落ち着いて就寝できる環境である。日中も滞在場所が居室や和室、ホールなど各々で個々に合わせた場所にて休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時は処方説明書を全職員が閲覧しやすい場所に備えている。副作用の心配が大きい薬に対しては説明と注意を管理者から指示する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを行う際、リーダーシップをとる者や助言を受けながら取り組む者など分担が自発的におこなわれている。他にも職員が其々の個性を把握し楽しみごとの提供に工夫を凝らしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含められている。事業所行事では中距離のドライブも実施している。	外出は、楽しみ・運動・気晴らしを目当てに、ホームでの安心快適な暮らしに、結び付けたいの思いで行っている。普段は、散歩や買い物、外気浴、時には希望が多いショッピングセンターでの買い物等に出かけ、ドライブでは、花見や紅葉狩り、家族との外食等、希望を募りながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を優先に考えており、現金所持されている利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話を希望される利用者様の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる照明を当てない、天井を高くする、大きな窓を設置する、風の通りを良くするといった工夫の他に、キッチンからの御飯が炊ける匂いがすぐ届くようにといった工夫をしている。	間接照明や床暖房を取り入れ、利用者が快適安全に暮らせるように配慮されている。室内からは外が見渡せ、四季を感じながら、のんびり時間が過ごせる空間となっている。地元の風習のみずき団子や大きくて綺麗な雛飾りもリビングに飾られ、家庭的な雰囲気を実感することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のタンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのもので持込ただけのようにしている。	備え付けのベッドや整理タンスなどを上手く使いながら、普段の生活に必要な時計や鏡、暦のほか、心の拠りどころの家族等の写真や手作りの貼り絵等を飾っている。整理整頓そして掃除が行き届き清潔・安全快適に過ごしていることが実感される	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		